

Letters

レターズ / 加入者や保護者の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

千葉県

K・Tさん（母）

娘が19歳になりました。交通遺児等育成基金に加入させていただいて、教育資金に困ることもなく、感謝しています。

主人が交通事故で亡くなったと電話が入り、駆け付けた警察でいただいた冊子の中に貴会の紹介があり、何が何だかわからない中、とりあえず電話をかけました。5年間ありがとうございました。楽しい思い出がたくさんできました。

神奈川県

K・Mさん（母） K・Sさん（加入者）

♡お母さまより

この度、交通遺児等育成基金の給付完了のご連絡をいただきました。

長きに渡り、ご支援や励ましをいただきありがとうございました。事故当時、長女は3歳でした。全く先が見えず、精神的、また経済的にも不安な中、このような支援制度を知りました。おかげさまで、その後の生活設計を立てることができ、安心して子育てをすることができました。

今春から大学生となり、月日が経ったことを実感します。皆様のご支援に親子共々感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

♡加入者さまより

長年のご支援、ありがとうございました。最近になってこのような制度に加入していたことを知り、19歳になった今、家族や支援してくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。このような温かいご支援をいただいたことをいつまでも心に留め、日々成長し、少しでもお返しできるよう精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

奈良県

T・Sさん（母）

長い間大変お世話になりました。不安でいっぱいの中、何度も助けていただきました。あの頃0歳だった長女は大学生になりました。周りの人に愛される娘に育ち、私以上に魅力的になり、私を助けてくれています。当時はこのような未来がやってくるとは思いませんでした。

今まで支えて下さり本当にありがとうございました。未来にも希望が持てる毎日を過ごせていることに感謝いたします。

東京都

M・Yさん（母） M・Mさん（加入者）

♡お母さまより

当時0歳だった娘が高校へ進学します。橋本給付金と図書カードをいただきました。進学時のお心遣い、ありがとうございました。教科書購入のタイミングであったため、すぐに活用させていただきました。

子どもが大きくなることも、自分が生きていくことも何も見えなかった時期から支えていただき、無事に娘が高校生になることができました。支援してくださる方々に本当に感謝しております。

♡加入者さまより

橋本給付金と図書カードをいただきありがとうございました。私は中学1年生の頃からラジオの基礎英語を聞いていました。そのテキスト代が毎月かかっていたので、今回いただいた図書カードは来年度分の費用に充てさせていただきます。

私も今年からは高校生です。まだ自分が何をしたいのかは分からないけれど、それをはっきりさせるために頑張りたいと思っております。

兵庫県 N・Mさん（母）

この度、給付完了のお手紙を頂戴いたしました。娘は8歳で父親との永遠の別れを経験し、11年。本当に色々なことがありました。寂しい瞬間もたくさんあったと思います。

私はここまで必死に涙は流さず、とにかく楽しく、笑ってられる日々を子ども達に与えてあげたい一心で子育てをしてきました。しかし、限界を感じることも多かったです。

入学式、卒業式、体育祭、音楽会…夫婦で参加されているのが当たり前で私には一人。両親が付いてきてくれたこともありましたが、私より、きっと娘の方が寂しかったに違いありません。そんな中でも、自分のやりたいことや得意なことを見つけて大学に進学し、今は寮生活をしております。金銭的に困ることもなく、気持ちに余裕をもって子育てさせていただけたのは、貴基金のおかげです。温かいメッセージと図書カードは娘に届けます。

次女、長男ともう少しお世話になりますが、私も子どもたちが結婚し幸せな家庭を築くまで元気に過ごさねば…と、思っています。本当にありがとうございました。

匿名希望さん

この度は給付金と図書カードをいただき、ありがとうございました。長女は第一希望の大学に進学することができました。

事故当時、夫は20代。出勤途中に飲酒運転の車に追突され死亡しました。幼い子どもの世話、裁判、仕事もあり、あの頃の記憶はほとんどないくらい慌ただしい毎日でした。

基金に加入し、冊子を読むようになって自分と同じ境遇の方々がいることを知り、落ち込むだけではなく夫の人生も生きなくてはいけないと思うようになりました。

財団関係の方々には、今までたくさんの給付、事業でお世話になり大変ありがとうございました。

神奈川県 U・Mさん（母） U・Mさん（加入者）

♡お母さまより

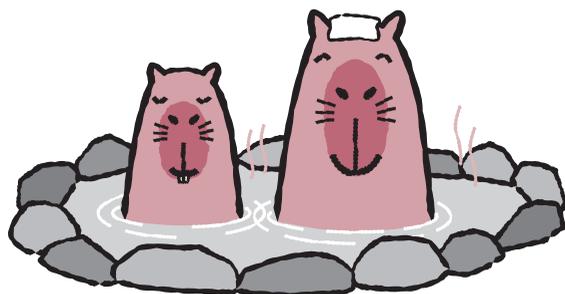
育成給付金完了のお手紙をいただき、娘が生後11か月の加入時から、約19年間本当にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。子どもの成長と共にかかる色々な学費も、基金の給付金や節目ごとのお祝い金のおかげで、子どもにも不自由なく、自分の思う方向を選んでもらうことができました。また、何より基金に加入したことで、同じような境遇の方と知り合えたり、お便りを通して気持ちを共有することができたのも、自分にとって大切な時間だったなと感じています。

当時は混乱の中で加入していた基金でしたが、そのおかげで私も娘もたくさんの支援をいただきました。今振り返るとあの時加入していなかったら、今の私たちはどうなっていたのかな…と不安になります。皆様の支援を忘れずに、これからは私も娘も自分たちでできる支援を考えながら生活していけたらと思っています。本当にありがとうございました。

♡加入者さまより

19年間という長い間、当たり前の生活や学校への登校など、不自由のない毎日を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。小さい頃は基金の仕組みなどもよく知らず、ただ幸せな日々を過ごしていましたが、この19年間を振り返ってみると、たくさんの支援のおかげで私はここまで成長することができたのだと、心からの感謝の気持ちが溢れてきます。本当に長い間、ご支援いただきありがとうございました。

この19年間で体験することのできたたくさんの挑戦や大切な経験を活かし、これからの人生もより良いものにと、毎日励んでいきたいと思えます。今まで本当にありがとうございました。



となりのレターズ

みんながとなりに寄り添う「もう一つ」のLetters

今号も基金を卒業された保護者様にインタビュー。事故に遭われてからこれまでの経緯や、子育てについてお話を伺いました。ご登場いただいたTさんは男女2人のお子さんのお母様で、現在54歳。29年前にご主人を亡くされた当時、Tさんは専業主婦でご長女は2歳、ご長男は生後6か月と大変幼く、しばらくは呆然自失状態だったそうです。しかし、現在はお子さんも立派に自立。幸せな日々を送っていらっしゃいます。

第5回 保護者体験談編

長野県長野市 2人のお子さんを育てたTさんの場合

私たち家族は、以前は三重県に住んでいまして、夫は電力会社の社員でした。夫が事故に遭ったのは、大型の台風が襲ってきている最中で、早朝に会社から電力保全のための呼び出しがあって車で会社へ向かう途中でした。自宅から5分ほどの場所で夫の車が電柱に激突しているのをパトロール中の同僚の方が発見して、救急車で病院へ運んでくれたのですが、即死ということでした。風雨が激しい中で目撃者もなく、警察の見立てでは動物などが飛び出てきて、それを避けるため急ブレーキをかけて横転したのではないかということでした。

夫の死を告げられてから遺体を確認するまでのことは、まるで夢の世界にいるようで涙も出ず、茫然自失状態だったことを今でも覚えています。

それからしばらくの間は、夫との思い出がたくさん詰まった三重から離れることができませんでした。毎日のように事故現場や思い出の地を訪ねたりして、このまま死んでしまおうかと何度も思いました。でも、その度に乳飲み子の息子が泣くんですよ。その声を聴いて我に返る日々でした。現在住んでいる長野に引っ越したのは、それから2年後のことです。「私が生きて、子どもたちに夫のことをきちんと伝えなければいけない」と思えるようになったからです。長野は私の出身地で、実家の母も健在でしたので、夫の保険金で親子3人で住める家を建て、暮らし始めました。

子どもの気持ちに寄り添って生きる

それからは子育てをしながらできる範囲で保険の外交員や本屋でバイトなどをして、暮らしてきました。生活費は労災保険金や遺族年金を主軸にして親子3人がなんとか食べてこれました。ただ、子育てに関し

ては息子が小2の終わりごろから小5まで不登校に、また、そうした弟の様子を見ていた娘もストレスを溜め込むようになって苦労しました。私は子どもに寄り添うことを第一に考えて、息子とは一緒に登校して学校で過ごしたり、学校の先生や保護者の方々と話をしたり……。娘にもいつも気を配って接していました。そうして過ごしていくうちに息子が徐々に登校できるようになりまして、それからは娘も息子も順調に成長してくれました。現在、娘は看護師に、息子はIT関連の仕事に就いて自立しています。

頑張り過ぎず、自分自身を愛して大切に

私が今『スマイルズ』読者の皆さんに言えるとしたら、「自分自身を愛して大切にしてほしい」ということです。皆さん、とても頑張ってきていらっしゃると思うんです。だから、辛いときは周囲の人に頼って、自分をねぎらってほしいんです。自分自身を大切にすることで、お子さんや周囲の人たちに対して余裕をもって温かく接することができるし、そういった相互依存関係を育むことが日々の幸せにつながると思うんですよね。

（編集部より）

Tさんは、ご自身も3歳のときにお父様を亡くされていて、ひとり親家庭で育ったそうで、これまで大変なご苦労をされたと思います。けれども、常に前向きに対処して乗り越えてきたそうです。現在はお孫さんも2人いて、あたり前の日常を送れることを日々感謝して過ごしているそうです。今後の目標は、「この日常を続けて、やがて命が尽きて、天国でお父様やご主人に再会したときに『幸せだった』と伝えられるように人生を送ることだ」とのこと。ぜひ日々の日常が長く続きますように！編集部一同心から願っています！！